

「私と写真と大雪山」～花開くその瞬間を

登山ガイドという仕事柄、今までたくさんの花の写真撮ってきました。大雪山といえば広大なお花畑に咲き競う多色の花々というイメージがありますし、実際7月の最盛期に訪れれば期待以上の花景色を楽しむことができます。

とはいえ、もともと花にはまったく興味がなかった私。初めて訪れた夏の大雪山、百花繚乱(りょうらん)の姿見園地、そこに名前を知っている花は一つもありませんでした。山に登る人なら誰でも知っている有名なチングルマですら「この白い花は何だろう?」という状態。それが、山歩きの記録として花の写真も、撮っているうちに、自然と名前や特徴がわかるようになり、今や「花ってかわいい」とまで思えるようになりました。

たくさん撮ってきた花の写真の中で、一番印象深いものはこちら。イワブクロという花の開花の前後を押さえたものです。

山頂に向かう途中、休憩を取って腰を下ろすと、濃紫のつぼみが目について何気なく写真に収めました。帰りも同じ場所で休憩し同じ場所に座ると、目の前には濃紫の可愛い花一。でもどこか違和感が…。「あれ、この花咲いてたかな?」



Nature Column (ネーチャーコラム)
自然ガイドなどで活躍する人たちのリレーしています。



前後の一瞬をとらえることが出来たイワブクロの開花(2007年7月) 開花前(午前11時21分)と開花後(午後2時17分) 〓

撮った画像をすぐにデジカメで確認してみると、確かにさっきはまだつぼみだったのです。登り、下りのほんの数時間で花開いた、というわけ。なんとも絶妙なタイミング。

おうちで育てる観葉植物ならまだしも、山奥ではなかなかこんな瞬間に立ち会えるものではありません。仮に立ち会っていたとしてもまず気がつくことはないでしょう。通り過ぎる時間がもう少しずれていれば、目の前で“パカッ”と花開く瞬間を見られたかも…。

山樂舎BEAR 土栄拓真



年長者をより尊敬する文化

国際交流員 尹 昭熙(ユン・ソヒ)

「韓国で年長者をいたわるのは、現代にも儒教が根強く影響しているからですよ」と問われることがありません。私は日本に来るまで、自分が年長者を敬っているという自覚はありませんでした。当たり前だと思っていたことが日本では珍しく思われ、私はもう一度韓国と日本の文化の違いを感じたものです。

握手をする時や目上の人から何かをいただく場合には、左手で右手を添えるか胸に当てます。両手で固く握手する場面もありますが、これも結構です。目上の人とお酒を交わす時には、正面を避けて飲むのは有名ですよ。 「もし両側に年長者がいる場合にはどこを向けばいいですか?」。これはとてもおもしろい質問でした。特に左右が決まっているわけではありませんが、より目上の人に合わせるか後ろを向くなどして「正面



韓国の小学校で行われる礼節教育

を避けることで礼をたてようとする姿勢」を見せるだけで十分相手に伝わります。できれば両親や目上の人の前では喫煙を控えます。

日本の学校で、学生が先生に向かって家族や友達みたくに話した態度をとったり、敬語を使わずに話すところを見た時にはびっくりしました。韓国では、どれだけ仲が良くても先生や目上の人には必ず敬語を使います。児童も最初から先生とご近所さんには礼儀正しく敬語を使い自分からあいさつするように教育する家庭もあります。学校では一つ上の先輩であるだけでも、後輩は敬語を使って先輩をたて、社会人になる前から上下関係の中にいます。だからといってみんなよそよそしいわけではありません。年齢、性別に関係なくハグを交わすなど、日本人同士より距離の近い関係にあります。大事なのは一線を引いた関係ではなく、相手を思う気持ちを目いっぱい伝えることなのです。

韓国人にとっては珍しい行動ではありませんが、誰でも当たり前身に染みついていて自覚していません。現代の世相に合わせて多少違って来たところもありですが、そういう違いをみるのもまたおもしろいものです。